

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	中学・ 高校	2年	6	組		
単位数	3単位	使用教科書 補助教材等	教科書: 数研出版 NEXT数学Ⅱ 問題集: 数研出版 CONNECT数学Ⅱ+B							
担当者	光岡									
学習目標	高校数学の中心となる数学Ⅱの基本的な内容を理解する。答えにたどり着く過程をしっかりと記述できるようになる。つまづきを明確にし、自己課題を設定していく力を養う。									
評価方法										
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢					
評価規準	・教科書の定義・定理・公式を理解し、それらを活用して問題が解けるか。 ・高校数学に耐える計算力が身についているか。		・公式をそのまま利用するだけでは解けないような問題に果敢に挑戦できるか。 ・途中過程などを含めて、数学の答案を記述できているか。		・自分のつまづきを把握し、それらを改善していくために適切な課題設定ができるか。 ・自宅学習にしっかりと取り組み、学習内容の定着を図れているか。					
各観点の授業内 評価方法等	主に定期考査・到達度確認テストの得点で評価する。 小テストへの取り組みも考慮する。		主に定期考査・到達度確認テストの得点で評価する。 小テストへの取り組みも考慮する。		主に問題集ノート提出・プリント課題の提出によって評価する。 授業内活動・振り返りも考慮する。					
学期末の 各観点比率(%)	約40%		約30%		約30%					
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	数学Ⅱ／第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円						13	1 学期 中間 考査	
	5	中間考査								
	6	数学Ⅱ／第4章 三角関数 第1節 三角関数						16	1 学期 期末 考査	
	7	期末考査								
	8	夏期講習会								
2	9	数学Ⅱ／第4章 三角関数 第2節 加法定理 数学Ⅱ／第5章 指数関数と対数関数						16	2 学期 中間 考査	第1回 到達 度 確 認 テ ス ト
	10	中間考査								
	11	数学Ⅱ／第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用						16	2 学期 期末 考査	
	12	期末考査								
3	1	数学Ⅱ／第6章 微分法と積分法 第2節 導関数の応用 第3節 積分法						17	学 年 末 考 査	第2回 到達 度 確 認 テ ス ト
	2	学 年 末 考 査								
	3									

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	中学・高校	2年	7～9	組	
単位数	4単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学Ⅱ, 数学Ⅲ						
担当者	星野、加来		数研出版 CONNECT 数学Ⅱ+B, 数学Ⅲ+C						
学習目標	暗記型の学習から脱却し、意味理解を重視した学習観の獲得を目指す。 数学的思考を経験する中で概念の構造化を目指す。 振り返りにより学習課題を見出し、望ましい学習観に基づいた学習サイクルを身につけ実践することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	教科書に記載されている数学的な事実、解法の意味を理解して習得する。また、習得した解法等を用いることで、基礎的な数学の問題解決を図ることができる。		獲得した知識・技能の組み合わせることで、より高度な数学の問題解決をすることができる。また、他者に誤解なく伝わる表現(口頭または記述での説明や論証)で数学的な思考を伝えることができる			学びの質を高めるために振り返りにより教訓を抽出し、それを次の学びに活かし学び方を改善しようと努力することができる。また、学びそのものを粘り強く継続して取り組むことができる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査, 小テスト, 朝テスト, 到達度確認テスト		定期考査, 到達度確認テスト 授業内での表現課題			授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み 問題集ノート 授業中の学びに向かう態度			
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%			30%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 全範囲					20	1 学期 中間 考査	
	5								
	6	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 6 加法定理 ～ 7 加法定理の応用(2倍角の公式)					17	1 学期 期末 考査	
	7								
	8	第2節 加法定理 7 加法定理の応用(三角関数の合成)							
2	9	第5章 指数関数と対数関数 全範囲					20	2 学期 中間 考査	
	10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 ～ 2. 導関数とその計算							
	11	第1節 微分係数と導関数 3. 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法					20	2 学期 期末 考査	
	12								
3	1	数学Ⅲ 第1章 関数 全範囲					20	学 年 末 考 査	
	2	第2章 極限 第1節 数列の極限 全範囲							
	3								

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	履修学年	中学・高校	2年	2	組	
単位数	4単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 改訂版 数学Ⅱ, 数学Ⅲ						
担当者	星野		数研出版 改訂版 サクシード 数学Ⅱ+B, サクシード 数学Ⅲ						
学習目標	暗記型の学習から脱却し、意味理解を重視した学習観の獲得を目指す。 数学的思考を経験する中で概念の構造化を目指す。 振り返りにより学習課題を見出し、望ましい学習観に基づいた学習サイクルを身につけ実践することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	教科書に記載されている数学的な事実、解法の意味を理解して習得する。また、習得した解法等を用いることで、自力で基本的、典型的な数学の問題解決を図ることができる。		獲得した知識・技能の組み合わせることで、より高度な数学の問題解決をすることができる。また、他者に誤解なく伝わる表現(口頭または記述での説明や論証)で数学的な思考を伝えることができる			学びの質を高めるために振り返りにより教訓を抽出し、それを次の学びに活かし学び方を改善しようと努力することができる。また、学びそのものを粘り強く継続して取り組むことができる。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査, 小テスト, 朝テスト, 到達度確認テスト		定期考査, 到達度確認テスト 授業内での表現課題			授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み 問題集ノート 授業中の学びに向かう態度			
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%			30%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法					20	1 学期 中間 考査	
	5	数学Ⅲ 第3章 関数							
	6	第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限					16	1 学期 期末 考査	
	7	4. 関数の極限 ~ 5. 三角関数と極限							
	8	6. 関数の連続性							
2	9	第5章 微分法					17	2 学期 中間 考査	
	10								
	11	第6章 微分法の応用 第7章 積分法 第1節 不定積分 1. 不定積分とその性質 ~ 2. 置換積分法					21	2 学期 期末 考査	
	12								
3	1	第7章 積分法 第1節 不定積分 3. 部分積分法 ~ 4. いろいろな関数の不定積分					21	学 年 末 考 査	
	2	第2節 定積分 第8章 積分法の応用 1. 面積							
	3								

教科名	数学	科目名	数学Ⅲa	履修学年	中学 高校	2 年	4, 5 組		
単位数	4	使用教科書 補助教材等	数研出版 改訂版 数学Ⅱ 数学Ⅲ						
担当者	山内 渡辺 永野		数研出版 改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B サクシード 数学Ⅲ						
学習目標	微分・積分, 数学Ⅲの極限, 微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにする. それとともに, それらを活用する態度を育てる. 演習プリントに振り返りの欄を作成し, 各単元また節ごとに学期に数回提出させ, 思考・判断力を向上させる.								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	授業および教科書を通して学んだ基本的事項や原理法則等を理解している. また, 問題に対して学習した内容の理解および知識利用して, 数学的な処理ができる.		極限, グラフ, 求積等の知識・技能を活用し, それらを組み合わせて諸問題に対応しようとしている. また, 自分の考えや解法を正しく表現・説明しようとしている.		知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を身につけるために, 積極的に授業に参加したり諸問題に粘り強く取り組みを行おうとしている.				
各観点の授業内 評価方法等	主に, 定期考査100点のうち, 基本問題を50%程度出題し, 知識・技能の習熟度合いを評価する.		習得した知識・技能を様々な問題に活かせるかを図るため, 定期考査では50%程度出題する.		理式・技能, 思考力・判断力・表現力を身につけるため, 粘り強く取り組んでいるかを評価する. そのためには, 普段の授業に対する取り組みや, 提出物, 小テスト等を総合判断する.				
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%		30%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	【数学Ⅱ】	【数学Ⅱ】第6章 微分法と積分法 第2節 導関数の応用(P. 207 グラフと方程式・不等式) 第3節 積分法			12	1 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ①	
	5		【数学Ⅲ】第4章 極限 第1節 数列の極限 中 間 考 査			6			
	6		第2節 関数の極限 【数学Ⅲ】第5章 微分法 (1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算) 期 末 考 査			5 8 6 20			
	7								
2	8						2 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ②	
	9		【数学Ⅲ】第5章 微分法 (3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. パラメータと導関数) 【数学Ⅲ】第6章 微分法の応用			11 7			
	10		第1節 導関数の応用 (1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化) 中 間 考 査			18			
	11		【数学Ⅲ】第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 (5. 関数のグラフ 6. 方程式, 不等式への応用) 【数学Ⅲ】第7章 積分法 第1節 不定積分			11 4	期 末 考 査		
12		期 末 考 査			25				
3	1		第6章 微分法と積分法 第2節 導関数の応用 第3節 積分法			4 11	学 年 末 考 査		
	2		学 年 末 考 査			19			
	3								

教科名	数学	科目名	数学B	履修学年	中学・高校	2年	6組						
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B 数学C										
担当者	永野		数研出版 CONNECT 数学II+B 数学III+C										
学習目標	数列、統計的な推測ベクトルを学ぶ上で、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察する能力を養い、育てていく。												
評価方法													
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢								
評価規準	基本的事項、公式などを理解しているか。そしてそれらを用いて問題を解くことができるか。		グラフや図形等の知識・技能を活用し、それらを組み合わせることで諸問題に対応しようとしているか。また、自分の考えや解法を正しく表現・説明しているか。		積極的に授業に参加しているか。授業中に取り上げた問題に真剣に取り組んでいるか。自ら必要な課題を設定しそれに取り組んでいるか。								
各観点の授業内 評価方法等	定期考査100点のうち、基本問題を6割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、60%以上とれていれば「3」、80%以上とれていれば「4」をつける。		定期考査100点のうち、基本問題を4割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、70%以上とれていれば「3」をつける。		「調整」と「粘り強く学習に向かう姿勢」で総合判断する。「調整」とはよりよく学習に向かうための努力を意味する。具体的には振り返りや課題の設定の仕方を指す。「粘り強く学習に向かう姿勢」とは出された課題に実直に取り組んでいるかなどを評価する。これらを総合的に見て評価を付ける。								
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%		30%								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2				
1	4	【 数学B 】 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	中間考査				11	1 学期 中間 考査	到達度 確認 テスト ①				
	5												
	6	第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	期末考査				8						
	7	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布	2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布 中間考査				9						
	8												
2	9	【 数学C】 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分	期末考査				12	2 学期 中間 考査	到達度 確認 テスト ②				
	10									第2節 統計的な推測			
	11									4 ベクトルの内積 第2節ベクトルと平面図形			
	12									3 ベクトルの成分			
3	1	4 ベクトルの内積 第2節ベクトルと平面図形					4	学 年 末 考 査					
	2								学年末考査				10
	3												

教科名	数学	科目名	数学B	履修学年	中学・高校	2年	7,8,9	組			
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B 数学C								
担当者	星野・永野・林		数研出版 CONNECT 数学Ⅱ+B 数学Ⅲ+C								
学習目標	数列, 統計的な推測ベクトルを学ぶ上で、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察する能力を養い、育てていく。										
評価方法											
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢					
評価規準	基本的事項、公式などを理解しているか。そしてそれらを用いて問題を解くことができるか。		グラフや図形等の知識・技能を活用し、それらを組み合わせることで諸問題に対応しようとしているか。また、自分の考えや解法を正しく表現・説明しているか。			積極的に授業に参加しているか。授業中に取り上げた問題に真剣に取り組んでいるか。自ら必要な課題を設定しそれに取り組んでいるか。					
各観点の授業内 評価方法等	定期考査, 小テスト, 朝テスト, 到達度確認テスト		定期考査, 到達度確認テスト, 提出課題			振り返り, 課題用のノートなどの記述や取り組み方, 授業中の発言, 授業内の行動を総合的に判断して評価する。					
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%			30%					
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	【 数学B 】	第1章 数列	中間考査						11	到達度確認テスト①
	5		第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 6 和の記号								
	6	7 階差数列 8 いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法 9 漸化式	期末考査						8		
	7	10 数学的帰納法									
2	8							4	2学期中間考査	到達度確認テスト②	
	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	中間考査						9		
	10	第2節 統計的な推測									
	11	【 数学C 】	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算	期末考査							12
3	12							4	学年末考査		
	1	4 ベクトルの内積 第2節ベクトルと平面図形									
	2	学年末考査						10			
	3										

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学 高校	2 年 2 組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 改訂版 数学B, 数学Ⅲ					
担当者	白岳		数研出版 改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B, Ⅲ					
学習目標	空間ベクトル, 確率分布と統計的な推測, 二次曲線および複素数平面の概念とそれら自身もつ性質を理解することを目標とする。また, 事象を数学的に考察する能力を培い, そこから一般化や抽象化を考えることでより高度な数学の力を身に付ける。振り返りを通じて学習課題を見出し, 質の高い自学ができるようになることを目指す。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	授業および教科書を通して学んだ基本的事項や原理法則等を理解している。 また, 問題に対して学習した内容の理解および知識利用して, 数学的な処理ができる。		数や式, グラフ, 図形等の知識・技能を活用し, それらを組み合わせて諸問題に対応しようとしている。 また, 自分の考えや解法を正しく表現・説明しようとしている。		知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を身につけるために, 積極的に授業に参加したり諸問題に粘り強く取り組みを行おうとしている。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査, 授業課題, 課題レポート		問題集への取り組み 授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み			
学期末の 各観点比率(%)	30%		40%		30%			
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学B】 第2章 空間のベクトル ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形				10	1 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ①
	5							
	6	第4章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布				8	期 末 考 査	
	7	期 末 考 査						
8					4	2 学 期 中 間 考 査		
2	9	第2節 統計的な推測				9	期 末 考 査	到達 度 確 認 テ ス ト ②
	10	【数学Ⅲ】 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線						
	11	第2節 媒介変数と極座標				12	期 末 考 査	
	12	期 末 考 査						
1	第1章 複素数平面 複素数平面				4			
3	1	複素数の極形式と乗法, 除法 ド・モアブルの定理				11	学 年 末 考 査	
	2	複素数と図形						学 年 末 考 査
	3							

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学 高校	2 年	4、5 組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 改訂版 数学B, 数学Ⅲ						
担当者	竹田		数研出版 改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B, Ⅲ						
学習目標	空間ベクトル, 確率分布と統計的な推測, 二次曲線および複素数平面の概念とそれら自身がもつ性質を理解することを目標とする。また, 事象を数学的に考察する能力を培い, そこから一般化や抽象化を試みられるようになることを目指す。振り返りを通じて学習課題を見出し, 学習サイクルを身に付け実施することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	授業および教科書を通して学んだ基本的事項や原理法則等を理解している。また, 問題に対して学習した内容の理解および知識利用して, 数学的な処理ができる。		数や式, グラフ, 図形等の知識・技能を活用し, それらを組み合わせて諸問題に対応しようとしている。また, 自分の考えや解法を正しく表現・説明しようとしている。		知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を身につけるために, 積極的に授業に参加したり諸問題に粘り強く取り組みを行おうとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査, 授業課題		問題集への取り組み 授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み				
学期末の 各観点比率(%)	50%		20%		30%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	【 数学B】 第2章 空間のベクトル ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形					10	1 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ①
	5								
	6	第4章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布					8	期 末 考 査	
	7	期 末 考 査							
8						4	2 学期 中間 考査		
2	9	第2節 統計的な推測					9		到達 度 確 認 テ ス ト ②
	10	【 数学Ⅲ】 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 中 間 考 査							
	11	第2節 媒介変数と極座標					12	期 末 考 査	
	12	期 末 考 査							
12	第1章 複素数平面 複素数平面					4			
3	1	複素数の極形式と乗法, 除法 ド・モアブルの定理					11	学 年 末 考 査	
	2	複素数と図形 学 年 末 考 査							
	3								

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学・高校	2年	1, 3組		
単位数	3	使用教科書 補助教材等	数研出版 改訂版 数学Ⅱ 数学B						
担当者	加来		数研出版 改訂版 教科書併用 サクシード 数学Ⅱ+B 統計的な推測・・・テキスト 利用予定						
学習目標	微積そして空間ベクトルについて、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察する能力を養い、育てていく。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	基本的事項、公式などを理解しているか。そしてそれらを用いて問題を解くことができるか。		グラフや図形等の知識・技能を活用し、それらを組み合わせることで諸問題に対応しようとしているか。また、自分の考えや解法を正しく表現・説明しているか。		積極的に授業に参加しているか。授業中に取り上げた問題に真剣に取り組んでいるか。出された宿題にどう取り組んでいるか。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査100点のうち、基本問題を6割程度出題。		定期考査100点のうち、基本問題を4割程度出題。		授業態度、提出物、小テスト等で総合判断する。				
学期末の 各観点比率(%)	40～50%		30～40%		20～30%				
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【 数学Ⅱ 】 第6章 微分法と積分法 第2節 導関数の応用 第3節 積分法 §7 不定積分					19	1学期中間考査	到達度確認テスト①
	5								
	6	§8 定積分 §9 面積					12	期末考査	
	7	【 数学B 】 第2章 空間ベクトル §1 空間の座標					6	2学期中間考査	
8									
2	9	§2 空間のベクトル §3 ベクトルの成分 §4 ベクトルの内積					13	中間考査	到達度確認テスト②
	10								
	11	§5 位置ベクトル §6 ベクトルと図形 §7 座標空間における図形					16	期末考査	
	12	統計的な推測							
3	1	演習					16	学年末考査	
	2	学年末考査							
	3	総復習							